

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 北海道石狩市立生振小学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例: 小中高一貫 )  
所在地 〒061-3245  
北海道石狩市生振375番地1  
E-mail ikc\_oyafuru\_e@mb.infosnow.ne.jp  
Website https://www.fureai-cloud.jp/edit/oyafuru  
幼児児童生徒数 男子 37名 女子 33名 合計 70名  
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、「地域に根ざした体験活動を基軸とするESD」を活動テーマとして、ESDをふるさとの良さを学び伝えるものと捉え、ESDの実践を通して主体的に活動し、実践する態度の育成を目標とした。

具体的には、ふるさとの学び、世界寺子屋運動、各学年でテーマを決めた総合的な学習の時間での学びを柱に、①学校田に係わる活動、②世界寺子屋運動に係わる教育、③学年ごとにテーマを決めた総合的な学習に係わる学習、を行った。

目指す子ども像を①自ら課題を見つけ学ぶことができる子②協働して学び合える子③学びを発信できる子、と考え以下の活動を行った。

### ① 学校田に係わる活動

本校には地域から提供された学校田がある。地域の方々の協力を得て、「もみまき」「田植え」「稲刈り」「もちつき」など、もち米を育て食べる活動をしている。

また、学校田をきっかけとして、地域の方々へ取材を行い、米作りを学ぶ活動(3年)や学校田の水生生物や昆虫などの生き物調べを行う活動(2年)を行っている。

## ② 世界寺子屋運動に係わる活動

日本ユネスコ協会連盟が行っている、世界寺子屋運動に協力している。一つは「ユネスコファーム活動」と題して、地域の方々の協力を得ながら、学校に畑を作り、そこで育てた野菜を保護者に向けて販売している。得た収益をユネスコに寄付し、世界寺子屋運動に役立ててもらっている。二つ目に6年生が中心になって行う、書き損じはがき集めである。市役所や図書館、地域のスーパーなどに出かけ、趣旨の説明やチラシ配りなどを行い、はがきの寄付を募る活動である。

## ③ 学年ごとにテーマを決めた総合的な学習に係わる学習

3年「学校田のゆくえ」

4年「福祉・アイヌ文化学習」

5年「エネルギーについて」

6年「ユネスコスクールの一員として」

地域、福祉、環境、エネルギー、国際理解、平和学習に取り組んでいる。生振の地域学習をきっかけにして、卒業時には世界や平和について興味関心、理解が広がり、そして自分たちの取り組みが「心の中に平和の砦を築くこと」につながっていると気付く教育課程を編成している。

2月には全校でのESD発表会を開き、1年間学んだことをまとめ、ポスターセッション形式で発信する機会を設けている。



学校田活動（稲刈り）



ユネスコファーム活動（収穫）



総合的な学習（アイヌ文化学習）



総合的な学習（ESD発表会）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

4月に全校でユネスコファーム会議を開き、ユネスコの目的「心の中に平和の砦を作る」と、「ユネスコスクールは平和に協力する学校」であるということを子どもに伝え、どのような活動を1年間行うのかを説明する学習を設けている。

そして、各学年の教育課程に、総合的な学習を中心にして、学校田活動、ユネスコファーム活動、そして学年ごとにテーマが異なる追究学習を位置づけている。また、教科横断的なつながりや指導時期がわかりやすいように「ESDカレンダー」を作り、指導に役立てている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

地域人材として、教育活動に協力いただく方々の名前と連絡先を各学年の教育課程や学校運営計画に記載し、担当が変わっても継続して取り組みを行えるようにしている。

また、校務分掌に連携係を位置づけ、学校田活動、ユネスコファーム活動などにおいて、中心的に指導や、外部との連絡の窓口を担うなどの体制を整えている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

（評価方法）

- ・教職員による、中間評価と年度末評価
- ・年2回の保護者アンケート
- ・年2回の児童アンケート
- ・年2回の学校関係者評価委員会

（成果）

- ・ESDで育てたい力を明確にすることで、教科のねらいを第一におさえた、授業実践ができるようになった。
- ・他者と交流する機会を意図的に設けた授業展開の工夫をすることで、発表の機会を作ったり、考えをより深めたりできるようになった。

（課題）

- ・学校田については、地域で米作りを行う人が減少し、協力してくれる方がいなくなるため、プロジェクトチームと立ち上げた。
- ・様々な活動にかかる準備や時間があまりにも膨大であり、教育課程と良き伝統のバランスを見直すことが必要。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

2月の授業参観の時に、ESD 発表会と題して保護者へ一年間の学びを発信する機会を設けている。ポスターセッションや劇形式で行い、お客さんへクイズを出したり、質問や感想をもらったりなど、他者と交流しながら学びを深めている。

また、ユネスコファーム販売会と称して、ファームで収穫した野菜を保護者・地域を対象に販売をしている。その際、各学年がファーム活動で取り組んできたことを発表している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

6年生を対象にして、世界寺子屋運動(書き損じはがき集め)の出前授業を石狩ユネスコ協会の協力を得て行っている。また、ユニクロが主催する、難民に服を届ける「服のカプロジェクト」に協力している。どちらも、単元の導入に出前授業を行うことで、課題を意識させることにつながっている。課題解決のため、自分たちで計画を立て、活動し、結果につなげるといった課題解決型の学習を行っている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

石狩ユネスコ協会が主催する、研修会や全体会などに参加し、他のユネスコスクールの実践や状況の交流を行っている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項2-5に対応

○保護者のアンケートから

- ・学校田活動は学校の特色の一つ、「食べること」「生きること」について考える良い機会。
- ・米作りについて知ることは、様々な人々の苦労や努力があるということを知ること。新たな発見があった時には、子どもはキラキラした眼差しで話してくれます。
- ・高学年が下の学年に鎌の使い方を教えている姿は見ていて頼もしかった。

○子どもの変化

- ・全校での縦割り班での作業のため、上の学年が下の学年の子を思いやる態度が育つ。
- ・高学年が良きお手本になり、その姿を低学年が見ていつかこうなりたいという目標を持てる。
- ・自分たちで計画を立て、活動したり実践したりしたことが、ユネスコの目的である「平和」につながっていることを6年間学ぶことで理解することができる。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- 4月 もみまき（全校）  
ユネスコ・ユネスコスクールについて（学級）
- 5月 田植え（全校）  
ユネスコファーム活動（全校）【降雪前まで】
- 7月 生振の地域学習（3年）  
福祉について学習（4年）  
環境について学習（5年）  
服のカプロジェクト（6年）【7～11月】
- 9月 稲刈り（全校）  
ユネスコファーム販売会（全校）  
世界寺子屋運動・書き損じはがき集め（6年）【9月～2月】
- 10月 アイヌ文化学習（4年）  
エネルギー学習（5年）
- 11月 わらぼうりづくり（5年）
- 12月 もちつき（全校）
- 2月 みぞづくり（3年）